

Title	イギリス・ウォーリック大学のModern Records Centre所蔵資料
Sub Title	The Modern Records Centre, University of Warwick library, England
Author	松村, 高夫
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1979
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.72, No.4 (1979. 8) ,p.537(133)- 548(144)
JaLC DOI	10.14991/001.19790801-0133
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19790801-0133">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19790801-0133</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# イギリス・ウォーリック大学の Modern Records Centre 所蔵資料

松村 高夫

## I

本稿は *Guide to the Modern Records Centre, University of Warwick Library, Occasional Publications, No. 2, 1977, pp. 152.* が Richard Storey と Janet Druker の編集により刊行されたのを期に、主としてその *Guide* に依拠しながら、Modern Records Centre 所蔵の資料を紹介しようとするものである。したがって、新しい第一次資料の発見でもなければその分析でもない。*Guide* ではアルファベット順に並べられている文献目録を、労働運動の発展に伴う労働組合の特質別に、それもきわめて大まかに、再整理したにすぎないし、脚注で指摘される各々の労働組合史は、この *Guide* に記されているものも多い。にもかかわらず、本稿は、第一に、イギリス労働史のなかの労働組合運動史に狭く限っても、機械、鉄道、炭鉱などの「主要」組合以外の様々な組合史研究がおこなわれ、何が「主要」組合であるのか、そもそも「主要」という意味は何であったのかという反省すら生みだされる研究状況になっていること、第二に、そのような研究範囲の拡大と組合史の見直しが組合資料の精力的な保存活動に裏うちされてはじめて可能となっていること、この二点を示すことになる。

系統的な労働史資料の探索とその組織的確保・保存は、イギリスでも本格的にはまだはじまったばかりで

ある。このように書くと、ひとはすでに労働史資料の保存所として、Webb Collection at the British Library of Political and Economic Science や Cole Collection at Nuffield College Oxford が、さらに Howell Collection at the Bishopsgate Institute があるではないか、あるいは Place Collection at the British Library (Museum) や Goldsmiths' Library at the London Senate House 等の公共図書館があるではないか、と奇異に感じるかもしれない。また、Trades Union Congress Library や Marx Memorial Library や Labour Research Department に所蔵されている資料を指摘するひともあろう。確かにこれらの機関は資料の宝庫である。また、Public Record Office や British Library (とくに新聞を参照するときには Colindale の Newspaper Library) での探索は研究に不可欠であろうし、各カウンティ毎の Record Office も研究主題に則して調べる必要がある。また、Birmingham Reference Library や Liverpool Picton Reference Library 等々各都市毎にある参考図書館の地方史部門は資料の宝庫であるし、また、比較的古い大学の図書館が所蔵する文書は貴重である。その他、会社、労働組合(本部および支部)、教会、協同組合、友愛組合、建築組合や政党本部・支部等々に幸運にも残存している資料があれば、貴重であるのはいうまでもない<sup>(1)</sup>。だが、資料の系統的探索と組織的保存は、本格的にははじまったばかりなのである。

注(1) Royden Harrison, Gillian Woolven, Robert Duncan eds., *The Warwick Guide to British Labour Periodicals. 1790~1970*, 1977. は 4,000 点を越える Labour Periodicals のチェック・リストであり、所蔵場所が号数ごとに銘記してあるので、イギリス労働史研究者には必携の書である。また、Chris Cook ed., *Sources in British Political History, 1900~1951*, vol. 1 (1975)~は、所蔵資料を調べるのに便利である。とくに vol. 1 は、団体毎に所蔵する料の概略が載っているので、資料探索の好個の手引となる。*Bulletin of the Society for the Study of Labour History* が系統的におこなってきた以下の図書館の所蔵資料紹介も、概略を知るには便利である。

その作業のひとつが(きわめて重要なひとつが)、本稿でとりあげるウォーリック大学の Modern Records Centre (以下、MRCと略)なのである。

労働組合関係の資料は破損に見舞われやすい。ウェブ夫妻が、「古い文書類の多くは、その歴史的価値に無感覚な、個々の労働者たちの所有物となっている。大きな諸組合のあいだでは、規約類、報告書類、回覧報などが、ただ一組しか残っていないというのが、決して珍しいことではなかった。火災、新築による移転、あるいは老書記の死去などは、しばしば毎日実際に事務所で使用していないあらゆるものを、消失させてしまうのである。鋭敏な調査研究者や資料蒐集家は、われわれが昔の労働組合の中央本部に着いてみて、『古くず old rubbish』が、6ヶ月前に掃きだされてしまったことを知ったときの極度のいらだたしさを、よく認めてくれることであろう」と慨嘆したのは、夫妻が「労働組合史」執筆のために資料蒐集をしていた1890年代初期であった。夫妻は可能な限り労働組合の文書を蒐集し、貸与された議事録等の資料を筆写したが、ロンドン・スクール・オブ・エコノミックスの前掲 Webb Collection を利用したものは誰でも、その蒐集の徹底さに驚嘆するにちがいない。このウェブの伝統は、イギリス労働史学会 Society for the Study of Labour History が創設され、新しい活力に満ちた労働史研究がはじめられた1960年頃に復活した。労働史学会は、「我々の学会の目的のひとつは労働資料を確保し保存することである」としたし、その学会の

創設者の一人である E. J. ホブズボームは、1960年につきのように書いた。

「わが国は労働者階級の生活と発達について労働者階級自身が作成し、記述した記録あるいは印刷した記録がきわだって豊富であるということを、我々は認識しなければならない。それがいかに豊富であるかは、他国の同様の課題を研究しようと試みたものには判ることである。これらの記録は散在しており、ほとんど探究されておらず、今日では利用することがかなり困難である。しかし、その記録は存在しているのだし、きわめて多量なのである。19世紀以来、ほとんどのイギリス人は賃労働によって生計を維持してきたという事実を我々がもっと強く感知したならば、この記録はこれ程長い間放置されることはなかったであろう。我々の歴史研究において、我国の有業者の大部分を占めるものの諸活動にたいして、正当な比重を与えるときではないのか。資料はあるのだ。我々はその資料を利用しなければならない。」<sup>(3)</sup>  
1960年代初期に、TUC のライブラリアン D. クロウザーは、労働組合の合併、事務所の移転、貸与による紛失、戦災、疎開などによる資料破壊を防ぎ、貴重な労働関係資料を保存するため、TUC の協力のもとにチェック・リストを作成しはじめたが、予期せぬ彼女の早逝は、その価値あるしごとを中断してしまった。そのため、ホブズボームの前述の指摘から10年以上経った1973年の労働史学会の紀要は、エディトリアルで、「労働史資料の点で世界でもっとも豊富な国が、資料

Philip Snowden Library, Keighley (*Bulletin*, no. 1), Nuffield College, Oxford (no. 2), John Rylands Library, Manchester (no. 2), Birmingham City Library: Local Collection of Reference Library (no. 3), Southampton University Library (no. 4), Liverpool Reference Library (no. 5), British Library of Political and Economic Science (no. 6), Glasgow University Library (no. 6), Bradford City: Reference Library (no. 7), Howell Collection: Bishopsgate Institute, London (no. 10), Ruskin College, Oxford (no. 23).

また、*List of Accessions to Repositories* (年次)より労働史関係の1954年以降の資料のみを抽出し、Adult education, Condition of employment and general welfare, Co-operatives, Labour Politics, Personal papers, Trade Union and Friendly Societies と分類し、所蔵する各 Library や County Record Office 名を示すリストが、*Bulletin* no. 28, Spring 1974 以降掲載されているので、参照する必要がある。

*History Workshop—a journal of socialist historians* は、まだ系統的にはいえないが、精力的に archives の紹介をはじめている。Brenda Swann, The Public Record Office as a Source for Labour History (*History Workshop*, no. 2, 1976); Julian Harber, Labour Archives in the Calder Valley (no. 5, 1978); Jenny Morris, The Gertrude Tuckwell Collection (TUC Library) (no. 5, 1978); Raphael Samuel, The Bishopsgate Institute (no. 5, 1978); John Gorman, Photo Archive at Beamish Open Air Museum (no. 6, 1978) が、6巻までに紹介されたものである。

注(2) S. & B. Webb, *The History of Trade Unionism*, 1920 ed., p. xiii, 飯田鼎・高橋洸訳『労働組合運動の歴史』上巻, 9~10ページ。

(3) Eric Hobsbawm, Records of the Trade Union Movement, *Archives*, vol. IV, no. 23, 1960, p. 137.

の探索や回復の措置の点ではもっとも不十分な国のひとつであるというは依然として事実である<sup>(4)</sup>と書かねばならなかった。事の重要性は認識されていたにもかかわらず、実施が遅れていたのは、蒐集された資料の保存スペース、専門的ライブラリアンの確保等、その実現に必要な多額な費用のためであった。1973年にウォーリック大学が、Leverhulme Trust Fund より「ブリテンの労働史および労使関係にかんする資料の救済と保護」を目的として財政的保障を（当面4年間）得るや事態は好転した。専門的計画実施者として、Richard Storey（前職は National Register of Archives）と Janet Druker（前職は British Museumの State Paper Room）という2名の有能なライブラリアンを得て、また、ウォーリック大学が蒐集された資料の広いスペースとして同大学の図書館の一部を使用することに同意して、1973年10月に Modern Records Centre が創設されたのである。この計画遂行には、同大学社会史研究所所長の R. ハリスン教授および労使関係学部の G.S. ベイン教授の陰の尽力があったことは特筆されてよい。すでに同大学図書館は、1966年に Howard League for Penal Reform のコレクションを一括購入し、翌年には Maitland/Sara コレクション（社会主義者、マルクシスト、トロツキストの運動関係のパンフレット類）を所有していたが、これらは、MRC の創設に伴い、MRC に移管された。MRC は労働組合や雇用者組織、政党などの社会史・労働史関係の資料を短期間のうちに急テンポで蒐集し、1977年には *Guide to the Modern Records Centre* と題する所蔵資料目録を刊行するまでになったのである。

## II

MRC は、創設4年後の1977年までに、約40の労働組合からの資料委託を含めて150種の受け入れがあり、その数はその後も急増している。MRC 以外の資料保存所や図書館が所蔵している全国労働組合の資料は、Halifax Public Libraryのごとく最近新しく蒐集がはじまったところはあるものの、全体としてはきわ

て少ない。労働組合数の全国統計が得られる最初の年1892年から1972年までの期間に、イギリス（United Kingdom）で6,000の労働組合が存在したというから、そのなかで組合記録を残し、今日まで蒐集・保存しているのはきわめて少数なのである。

そのなかでも、1850年頃までの労働組合資料は極端に少ない。S. ボラードが指摘するように、その理由は少なくとも二つある<sup>(5)</sup>。第一に、初期労働組合は記録を作成し保存する専従をもたなかったからであり、第二に、団結禁止法が撤廃される1824～25年まで労働組合は非合法であり、さらにそれ以降も1875年法成立までは労働組合の法的地位は不安定だったので、労働組合は記録を作成・保存しなかったのである。もっとも、第2の理由は、団結禁止法の実際上の効果・影響という点に関する疑問の表明が相当に説得力あるものであることを考慮すると、議論の余地があるところではあろう。だが第一の理由、即ち専従書記がいなかったことは、文書作成・保存に大きな制限をもたらしたことは疑問の余地がなく、1850年頃から形成されるクラフト・ユニオン、いわゆる「新型組合」New Model Unionが専従書記をかかえるようになって、この制限は緩和され、組合文書数は増加する。熟練工から組織された「新型組合」は全国組織であり、比較的高い週1シリングという組合費を徴収して財政基盤を確立し、失業給付や疾病給付などの共済機能を円滑に遂行するために専従書記が雇用され、地方支部からの上納金や共済費支出などの帳簿が整備されたからである。さらに、地方支部から本部書記宛の報告書、大会や執行委員会の議事録、機関誌などが作成され、そのうち残存した資料は、当時の組合の組織状況、財政状況や活動状況についての豊富な情報を提供するのである。MRC が所蔵するクラフト・ユニオンの資料は、大別して、建築、

（A）まず、建築関係の記録としては Carpenters and Joiners, Cabinet Makers, House Decorators and Painters, Bricklayers, Stonemasons, Plasterers,

注(4) *Bulletin of the Society for the Study of Labour History*, no. 26, Spring 1973, p. 3.

(5) George Sayers Bain and Gillian B. Woolven, *The Primary Materials of British Industrial Relations*, *British Journal of Industrial Relations*, vol. IX, no. 3, 1971, p. 393. なお、1969年末に United Kingdom で508の労働組合が存在していたと指摘されている（p. 393）。70～80年間の労働組合の消長、合併・吸収の度合いが、いかに激しかったかを推測しうる。

(6) Sidney Pollard, *Sources for Trade Union History*, *Amateur Historian*, IV, Autumn 1959, pp. 177-8.

Plumbers の組合の記録を所蔵している。

1) Amalgamated Society of Carpenters and Joiners (MSS. 78)<sup>(7)</sup>

Amalgamated Society of Engineers と並ぶ、いわゆる「新型組合」の典型とされる組合。1860年創立。

1871年まで Robert Applegarth が書記をつとめた。

General Council minutes, 1871-1910, 1912-21.

Council's decisions 1870's-90's.

Reports, 1860-6, 1881-8, 1914, 1916, 1918 & 1920.

Trade Directory, 1869.

History of the Society, 1860-1910.

Ealing branch: proposition and entrance book, 1865-1913.

Kidderminster branch: treasurer's cash book, 1872-6.

Maidstone branch: minute book, 1865-76; proposition and entrance book, 1865-1912.

Manchester branch: minute books, 1863-73.

Worthing branch: check steward's book, 1868-71.

等々。

なお、1860年代にこの ASCJ の対抗的組織となった General Union of Carpenters and Joiners は、1827年創立。1840年代、50年代は後退をつづけるが、62年に降組員数は増加しつづけた。1920/21年に Amalgamated Society of Woodworkers に合併される<sup>(8)</sup>。1863年以前の資料は失われたが、MRC の所蔵するのは (MSS. 78);

Annual reports, 1866-82.

Monthly reports 1867-8, 1877-80.

(Monthly) trade and annual reports, 1889-1920 (incomplete).

Rulebooks, 1827, 1874.

Ashton-under-Lyne branch: minute book, 1856-64; contributions book, 1845-64; levy book, 1853-62; strike book, 1851-3.

New Mills lodge, secretary's book, 1874-84, and fine book, 1866-79.

Salford lodge, members' subscription book,

1876-8.

等々。

2) Amalgamated Union of Cabinet Makers (MSS. 78)<sup>(9)</sup>

前身は1833年に創立した全国組合である。1918年に ASCJ に合併される。

Annual and other reports, 1834-1915.

Monthly reports, 1876-1915.

なお、1833年以前の地方組合も含めて、Cabinet maker のつぎの資料もある。

Belfast Cabinet Club, minute & subscription book, 1788-1812.

Friendly Society of Operative Cabinet Makers, Belfast branch minute book, 1873-7, 1878-85.

London Cabinet Makers' Union: *Book of prices*, 1811 (printed).

Preston Joiners, cash book, 1807-31.

3) Amalgamated Society of House Decorators and Painters (MSS. 78)

1868年創立。MRC は Annual reports, 1872-1900; 'London Amalgamated' Register, 1873-93, 1893-1900 を所蔵。1904年には、Manchester Alliance of Operative House Painters と合同し、National Amalgamated Society of Operative House and Ship Painters and Decorators を結成する。MRC 所蔵の Manchester Alliance の資料は、

EC minutes, 1888-1893, 1902-04.

Membership record book, c. 1860's-c. 1904.

Annual / Half Yearly / Quarterly reports, 1867-85, 1886-93, 1901-04.

Rulebook, 1886.

Record of branch registration, 1885-1918.

4) Manchester Unity Operative Bricklayers (MSS. 78)

1829年創立。1841年にはロンドン支部が分離した

注(7) ASCJ にかんしては、R. Postgate, *The Builders' History*, 1923. が古典的なもの。

(8) Amalgamated Society of Woodworkers の歴史にかんしては、T. J. Connelly, *The Woodworkers, 1860-1960*, 1960. および S. Higenbottam, *Our Society's History*, 1939. が参照文献。

(9) D. Blankenhorn, *Trade Unionism among 19th century Cabinet Makers*, M. A. thesis, Univ. of Warwick. (作成中)

ため、本部をマンチェスターに移す。1860年代に再建されたが、80年代以降衰退し、1920年に当組合は Amalgamated Union of Building Trade Workers に吸収された。Death books, 1867-1920; Monthly reports, 1868-86; Quarterly reports, 1886-1918. を所蔵している。

一方、1841年に分離したロンドン支部を中心として、1848年に新組織、Operative Bricklayers' Society が結成され、1920年に AUBTW に合併されるまで存続する。OBS の資料としては、

Yearly returns of members' payments, 1871-1920.

Monthly reports, 1861-1920.

Annual reports, 1862-1920 (includes Quarterly reports, 1862-6)

Hull branch: minute book, 1890-92.

Manchester branch: cash account book, 1870-4.

等々。

5) Operative Stonemasons Society <sup>(10)</sup> (MSS. 78)

1833年に全国組織として創立。最初の10年間は、建築部門で最もよく組織された組合の一つであったが、1880年代から衰退しはじめ、1920年に Amalgamated Union of Building Trade Workers に吸収される。

Building trades unions, conference delegate meetings, minute book, 1858-9.

Annual accounts, 1843-63.

Annual audits, 1863-1920.

Fortnightly returns, 1834-1910.

Blacklists, 1834-56, and propositions on laws; volume recording monies received for strikes, 1830's, including the London Dorchester Committee report.

Rulebooks, 1881-95, and membership cards.

Box lodge: relief book, 1889-1905.

Constantine branch: minute book, 1865-85.

Bradford: bank book, 1862-7.

Warrington branch: subscription book, 1832-89.

等々。

6) National Association of Operative Plasterers <sup>(11)</sup> (MSS. 126)

1858-60年頃に創立。1967年に Transport and General Workers' Union に移行した。

Monthly reports, 1886-1932.

Auditors' reports (annual), 1876-90.

Annual reports, 1873-5, 1891-1967.

Reports and balance sheets, 1895-1926.

Census, 1881.

Conference reports, 1899 & 1904.

7) United Operative Plumbers' Association <sup>(12)</sup> (MSS. 134)

1865年創立。1872年、91年に一時組合員数は減少するが、19世紀末までに184支部、1万人以上の組合員を有するに至った。1920年にはイングランドとスコットランドの plumber が再合同し、1946年には Plumbing Trade Union となり、さらに1968年には Electrical Trades Union と合併し、現在は Electrical, Electronic, Telecommunication and Plumbing Union となっている。MRC は、United Operative Plumbers' Association にかんしては、Minutes of the Circulating Executive Committee (Birmingham, Bolton, Edinburgh, Hull, Manchester, Newcastle, & Sunderland), 1876-1883, 1903-04, 1917-20. や Quarterly & annual reports: a few issues, 1876-1891, agendas & reports for 7 annual delegate meetings, 1880-1919. を所蔵し、また、この組合に合併された East London Society of Operative Plumbers にかんしては、

Minutes, 1874-89.

Balance sheets, 1881-8; cash book, 1872-83.

Rulebook, 188?.

があり、また、Scottish Plumbers' Society にかんしては、Registration books, 1865-1922. がある。

(B) Ironfounders 関係の資料が数点ある。

注(10) *Friendly Society of Operative Stonemasons. Centenary Souvenir*, 1933.

(11) J. R. Newman, *The N. A. O. P. Heritage: a short historical review of the growth and development of the National Association of Operative Plasterers, 1860-1960*, 1960. が参照文献。また Onlooker, "Hitherto" *The Story of an Association*, 1930. も、この union の歴史を扱ったもの。

(12) J. O. French, *Plumbers in Unity: History of the Plumbing Trades Union, 1865-1965*, 1965. が参照文献。

- 8) Friendly Society of Iron Founders<sup>(13)</sup> (MSS. 41) 当組合は1809年に創立。MRC所蔵の資料は、Executive Committee minutes, 1860-1920. Anniversary Committee minutes, 1889. Minutes of local branches: Burnley, 1854-1904; Cleckheaton, 1851-76; membership record for Worcester branch. Annual reports, 1862, 1867-1919. Half-yearly reports, 1839-66 (incomplete). Monthly reports, 1854-1918 (missing 1913). Printed Circulars, 1841-86. Final page of Rules and Orders of the Friendly Society of Iron Moulders, 1823, and printed rules & orders, 1846. 他に、foundry unionにかんしては、United Core-makers' Friendly Society<sup>(14)</sup>, Rulebook, 1872. Associated Ironmoulders of Scotland, Monthly reports, 1875-1919 (missing 1883, 1887-8). London United Brassfounders Society, Minutes, 1890-1941 (missing 1897-1900, 1910-13). Amalgamated Friendly Society of Plate Mouldersにかんしては、Delegate Committee: minute book, 1891-7. Correspondence and memoranda, mostly on finance, 1895-1919. Quarterly reports and Balance sheets, 1890-1901, 1917-34. Rulebooks, 1890-1950. がある。
- (C) 印刷・植字関係の資料は貴重なものを含んでいる。
- 9) Typographical Association<sup>(15)</sup> (MSS. 39) (Provincial) Typographical Association は、1849年に、Northern Typographical Union (1830~44年)、および、National Typographical Association (1844~48年)を継承して、創立。現在は National Graphical Association (1963年創立)の重要な構成体である。MRCは、National Typographical Association
- にかんしては、Midland District / Board Committee minutes, 1845-8. を、また、(Provincial) Typographical Associationにかんしては、Notes of meetings, 1849-53; minutes, 1853-1964. Report book of deputations to provinces, 1865-76. Reference register, 1870-90. Half-yearly reports, 1850-98, 1903-12. *Typographical Protection Circular*, nos. 1, 4-56 (1849-53). *Typographical Societies' Monthly Circular*, from no. 1 (Oct. 1852). Delegate meetings reports, various dates, 1861-1963. を所蔵している。
- 10) The London Society of Compositors<sup>(16)</sup> (MSS. 28) 1848年に結成。現在は National Graphical Association となっているが、MRCはとくにこの組合の資料を豊富に所蔵している。Minutes, 1845-9, 1861-2, 1906-64. House Committee minutes, 1855-6. Emigration Aid Committee minutes, 1856-7. 'Trade Reports' series, 1834-6, 1845-58, 1862-1959. Quarterly reports to delegates, 1846, 1849-52, 1853-1906, 1918-59. Annual reports, 1848-77, 1886-1922. 'Special Reports' 1847-56, 1861-76. 2 volumes of rules, the earliest of the Phoenix or Society of Compositors, 1792. 2 volumes of price scales, 1785-1891. 他に、前身組織である London General Trade Society of Compositors (MSS. 28) の Minutes, 1827-34. Minutes of Union Committee of LGTSC and

注(13) H. J. Fyrth and H. Collins, *The Foundry Workers: a trade union history*, 1959. が参照文献。

(14) *Amalgamated Society of Coremakers of Great Britain and Ireland. Jubilee Souvenir*, 1910. (Manchester)

(15) A. E. Musson, *The Typographical Association: origins and history up to 1949*, 1954. および Henry Slatter, *The Typographical Association: a fifty years' record, 1849-1899*, 1899.

(16) E. Howe & H. H. Waite, *The London Society of Compositors: a century history*, 1948.

LTSC, 1831-4.

および, London Union of Compositors の Minutes, 1834-45, Reports, 1833-40. 45. がある。

その他, Association of Correctors of the Press<sup>(17)</sup> にかんしては (MSS. 28),

Minutes, 1854, circular calling Association into being, lists of vacancies, 1866-7.

Draft Report on position of readers, 1869.

4 letters, 1864-7.

がある。

### III

一般的傾向として, 19世紀末に結成された不熟練工の, いわゆる「新組合」New Union や「一般組合」General Unionになると, 資料は激減することが特徴である。共済機能の喪失により帳簿づけの必要性が減少し, 加えて, 組合の合同, 合併のさいに, 弱小労働組合の資料が失われたからである。ホブズボームが十数年前に指摘したように, National Union of General and Municipal Workers は, その母体となった Municipal Employees' Association の完全な報告書のセットをもっていないし, また, National Union of Railwaymen (1913年に合併して結成された巨大組合) の大量の資料は, 大部分その母体の中心となった Amalgamated Society of Railway Servants のそれであり, 同じく母体となった弱小組合 General Railway Workers' Union および United Pointsmen's and Signalmen's Society の資料は (とくに後者のそれは), ほとんど残されていない<sup>(18)</sup>。まさに Storey と Druker が主張するように, 「組合の記録は, 合同 (amalgamation) のときか, その組合が他の組織に契約を移すときに, おそらくもっとも傷つきやすいのである。重大な損失は, そのような時期に生じたようであり, また, 主要な組合が, 他より小さい組合を吸収するばあいには, その小さい組合の記録は, ほと

んど必然的に, 消え失せるようである。」<sup>(19)</sup> かれらも, ホブズボームと同じく, その典型的な例として NUR をあげている。一般組合が資料を残さない傾向があるなかで, 例外として, Storey と Druker が, National Builders' Labourer's and Constructional Workers' Society と Amalgamated Union of Building Trade Workers<sup>(20)</sup> に加えて, ホブズボームとは異なり, Transport and General Workers Union をあげているのは, この10数年間に T GWU の資料蒐集が進展したからであろう。

1) National Union of Railwaymen<sup>(20)</sup> (MSS. 127)

MRC が所蔵する Amalgamated Society of Railway Servants (1872年創立) の資料は, つぎのものを含んでいる。

Reports and proceedings: bound printed series, including reports to and decisions of EC meetings, annual reports and financial statements, reports to AGM's, minutes of special conferences, ASRS circulars, reports of conferences with ASLEF, GRWU and UPSS, 1876-1913.

ASRS/NUR: EC decisions: 6 signed volumes, 1896-8, 1902-05, 1911-19.

Building Sub-committee minutes, 1909-11.

Cirencester branch: minutes, 1899-1918.

Hornsey & Wood Green branch: minutes, 1917-19.

NUR Stratford No. 1 branch: minutes, 1926.

Volumes of printed, pre-grouping arbitration decisions.

Scottish railways' conciliation boards: signed minutes, 1909-19.

Railway Employment Safety Appliances Committee: volume of R. Bell's papers, 1906-10.

Bound volumes of branch balance sheets (1875-1912).

Rail crisis arising from all-grades movement, 1907: 8 volumes of press-cuttings.

注(17) T. N. Shane (H. A. H. Healey), *Passed for Press. A centenary history of the Association of Correctors of the Press*, 1954. が参照文献。

(18) E. J. Hobsbawm, *op. cit.*, p. 134.

(19) R. Storey & J. Druker eds., *op. cit.*, p. 13.

(20) P. S. Bagwell, *The Railwaymen. The history of the National Union of Railwaymen*, 1963, G. W. Alcock, *Fifty years of railway trade-unionism*, 1922, および *Amalgamated Society of Railway Servants. Souvenir history*, 1910. が参照文献。



Railway strike and subsequent inquiry, 1911: 5 volumes of cuttings.

Rule books, 1889, 1900, 1903, 1906, 1913, 1923, 1935.

Subject files, including re strikes; *Mosley v. Marchbank* and opposition to Fascism, 1930's; industrial unionism and Triple Alliance.

*Railway Review*, from 1882.

このなかで、支部から本部宛の balance sheet は、各支部が本部 (General Office) 宛に提出を義務づけられていたもので、違反したばあいには罰金が課せられた。1875年以降 (ASRS の創立3年後から) 1912年までのほとんどの年のものが MRC に寄託されているので、本部・支部の財政収支状況、組合員名簿、組合役員名を各支部毎に知るための貴重な資料となっている。

その他、この NUR 関係のコレクションのなかでは、タフ・ヴェイル判決とオズボーン判決にかんする資料が貴重である。前者は、タフ・ヴェイル鉄道会社で生じたストライキ中の損害を ASRS が負担すべきであるとした判決 (1901年) であり、後者は、ASRS の Walthamstow 支部の書記 W. オズボーンが、自らの組合が労働党に政治献金することを組合員に強制するのは違法であると訴え、その訴えを認めた判決 (1909年) で、両判決とも、労働組合運動にたいする弾圧として、余りにも有名である。

タフ・ヴェイル判決にかんしては、<sup>(21)</sup>

ASRS Taff Vale Railway Men's Strike Committee minute book, 1900-01.

Minutes of ASRS meetings in connection with the dispute.

Proceedings of the various legal hearings.

Financial evidence relating to the strike.

Correspondence, 1900-03, including with organiser Holmes, union President, branches, solicitors, other organisations.

また、オズボーン判決にかんしては、<sup>(22)</sup>

ASRS Walthamstow branch minute book, 1897-1905.

Proceedings of legal hearings.

Correspondence, 1905-10, including with solic-

itors and with Osborne.

File of E. Charles, President of the ASRS, relating to the Osborne case; and ephemera of Osborne's Trade Union Political Freedom League. がある。

2) Transport and General Workers' Union (TG WU) (MSS. 126)

1922年に14の組合の合同により成立したが、MRC は、その母体となった組合のうち以下の資料を所蔵している。

1) Dock, Wharf, Riverside and General Workers' Union. (1889年の歴史的なドック・ストライキ後に結成された New Unionism の典型的組合といわれるもの)

2) National Union of Docks, Wharves and Shipping Staffs.

3) Amalgamated Society of Watermen and Lightermen of the River Thames. (1872年結成、熟練工組合)

4) Amalgamated Association of Tramway and Hackney Carriage Employees. (1889年結成)

5) London and Provincial Union of Licensed Vehicle Workers. (1894年結成)

6) United Vehicle Workers. (1920年結成)

7) Scottish Horse and Motormen's Association. (1898年結成)

8) Workers' Union. (1898年結成。TGWU には1929年加盟)

9) National Association of Operative Plasterers. (前述したごとく (P. 137-(6)), 1858-60年頃結成。ただし、TGTU には1967年加盟)

10) Scottish National Operative Plasterers' Union. (1888年結成)

11) National Amalgamated Union of Engine-men, Cranemen, Hammer-Drivers and Boiler Firemen. (1890年代初に結成。1926年 TGWU に加盟)

12) National Federation of General Workers. (1917年結成)

13) National Transport Workers' Federation. (1910年結成)

14) Transport and General Workers' Union.

注(21) D. S. Barrie, *The Taff Vale Railway*, 1931 (repr. 1977). *The Rhymney Railway*, 1952. および R. Storey, *The Taff Vale Case*, University of Warwick Occasional Publications, No. 3, 1978. が参照文献。

(22) W. V. Osborne, *My case, The causes & effects of the Osborne judgment*, 1910.

15) National Union of Vehicle Builders.

本稿では、このなかで、1) Dock, Wharf, Riverside and General Workers' Union と 8) Workers' Union の資料のみを紹介し、他は省略する。

Dock, Wharf, Riverside and General Workers' Union は、不熟練工による歴史的な1889年のロンドンのドック・ストライキの直接の落し子であり、MRC のコレクション (MSS. 126) には、

Annual reports, 1-30, 1890-1919.

Annual delegate meetings: printed minutes, 1-7, 1890-6.

Triennial delegate meetings: printed minutes, 1899-1920; official souvenir, 1920.

*Dockers' Record*, nos. 1-54, 1901-14, vol. 2, no. 1-vol. 7, no. 1, 1916-21.

が含まれているが、同時に、Tillett / Mackay Papers (MSS. 74) も、本組合史研究には欠かせない。この文書は、1950年代初期にジャーナリスト Ian Mackay が、ロンドンのドック・ストライキの指導者 Ben Tillett の伝記を書くために蒐集したものである。伝記完成前に Mackay は死去するが、MRC が最終的にその文書を購入したものである。すでに Ben Tillett にかんしては、Ben Tillett, *A Brief History of the Dockers' Union: commemorating the 1889 dockers' strike* (London, 1910) と同、*Memories and reflections* (London, 1931) があるが、Ben Tillett の研究には、この文書は貴重である。ちなみにその文書の内容を列挙すれば、

a) Ben Tillett の1888年の日記。

b) Hull のドック・ストライキ (1893年) にかんする新聞切り抜き。Tillett 自身による多数の注釈を含む。

c) West Bradford の選挙 (1895年) の Tillett 立候補にかんする新聞切り抜き。

d) *Morning* 株式会社にたいする Tillett の告訴 (1895年) にかんする新聞切り抜き。

e) Tillett の約90通の書簡。John Burns, Sir Charles Dilke, Sam Gompers, H. M. Hyndman, Tom Mann, Cardinal Manning, Gertrude Tuckwell 宛書簡が含まれている。また、1906年の労働組合法についての若干の書簡も含む。

f) Teas Operatives & General Labourers' Association 1st Quarterly Report.

g) 1887年の Ben Tillett, ないし Dock, Wharf,

Riverside & General Workers' Union にかんする種々の印刷物。

h) Jack Gill と Ian Mackay によって蒐集された Tillett にかんするファイル。Tillett からの若干の手紙を含む。

さらに注目すべきは、前述したごとく、ホブズボームが十数年前に殆んど資料がないと指摘した Workers' Union の文書であろう。これは R. Hyman が Ph. D. 論文を書くために蒐集した資料であり、その成果は、かれの *The Workers' Union* (Oxford, 1971) となって発表されているが、その資料は一括され Workers Union / Hyman Paper (MSS. 51) として所蔵されている。Workers' Union は1898年に結成され、1929年に TGWU に吸収・合併される。Hyman Paper は、いくつかの支部や地方委員会の議事録を含んでいる。また、TGWU の所蔵する Workers' Union の記録 (Annual Reports, 1905-26年と *The Record*, 1913-29年) は別途 (前掲 MSS. 126) に収められている。

IV

'New' Union や 'General' Union が資料を残しにくい傾向があったのと対照的に、第一次大戦以降急速に発展したホワイト・カラーおよび公務員の労働組合は、比較的よく記録を保存し、とくに第二次大戦後の記録は、完全なものが多い。MRC もこの種の文書を所蔵している。

1) Association of Scientific Technical & Managerial Staffs (MSS. 79)

1968年に、Association of Scientific Workers (その前身は1918年に創立された National Union of Scientific Workers) と Association of Supervisory Staffs, Executives & Technicians (その前身は、1917年に創立された National Foremen's Association) の合同によって成立した。さらに、Union of Insurance Staffs (その前身は、1917年創立の Guild of Insurance Officials) が1970年に ASTMS に加盟し、Medical Practitioners' Union (前身は、1912年創立の State Medical Service Association) が1971年に加盟した。MRC は、National Foremen's Association の議事録1918~42年を、また、Guild of Insurance Officials / Union of Insurance Staffs の議事録の1919~64年の完全なセットを所蔵している。<sup>(23)</sup> さらに、Medical Practitioners'

Union の議事録1924~34年, 1937~66年 (Council), 1938~60年 (Executive Committee) 等も所蔵している。

2) Association of University Teachers (MSS. 27)<sup>(24)</sup>

AUT は1919年に創立。MRC は AUT Council の議事録 (印刷されたもの) 1917~75年を所蔵している。もちろん, AUT のウォーリック大学支部 (1965年創立) の資料 (MSS. 113) もあるが, 教育史家に必要な資料としては, 他に Headmasters' Association (MSS. 58) (前身は1890年創立の Incorporated Association of Headmasters), Association of Assistant Mistresses (MSS. 59), および National Association of Schoolmasters (MSS. 38)<sup>(25)</sup> がある。AAMの資料の大半は爆撃で焼失されたが, 残った主要資料は Teachers' Guild of Great Britain & Ireland のものである。Teachers' Guild は 1884年に教員の組合として結成され, 1921年以降は Education Guild と呼ばれたが, MRCのコレクションは, 1888~1929年までの議事録 (Thrift & Benefits Committee) 2巻分, 1930~38年の議事録 (Joint Trustees) 1巻分, 1883/4~1928/9年 (3号分欠) の Annual Reports 等貴重な資料を含んでいる。また, NASは, Cardiff (1913年) や London (1919年) に結成された London Schoolmasters' Association などの地方教員組織に起源をもち, National Association of Men Teachers (のちの NAS) が NUT 内部に結成されることが決定されたのが1919年, NUT から独立して男子教員の組織 NAS ができたのが1922年であるが, 大半の資料は, やはり爆撃で破壊された。しかし, MRCの当コレクションには, London Schoolmasters' Associationの議事録1919~38年, および, 年次報告書1923/4~1931/2, 年等の資料が蒐集されている。

教育史のなかで, 労働者教育として重要な Central Labour College 関係の資料を見逃すことはできない (MSS. 127)。労働者教育を目的として1899年に Ruskin College が創立されたが, 1906年にその Ruskin College 内部に教育内容をめぐって紛争が生じた。学

生の「反乱」はカリキュラムの変更を求め, とくにジェヴォンズの経済学の教育をやめ, マルクスのそれをもって代えるべきだと主張し, College 長 Dennis Hird はそれを支持した。ついに1939年, Ruskin College から脱退した学生達と Hird は Central Labour College を創立し, 財政的には二つの主要な労働組合, 即ち South Wales Miners' Federation と新たに組織された National Union of Railwaymen がこの新しい College を支援したが, 1929年に当 College が閉鎖されると, College 関係の資料は NUR に寄託された。この資料が今回 MRC に収められたのだが, そのなかには, Labour College の議事録 (Staff Committee) 1912~15年や議事録 (Board of Governors) 1916~30年, 財政資料1917~30年がある。

教育史研究では, さらに, Collet Papers (MSS. 29) のなかの Clara Collet の Wyggeston Girl's School, Leicester での助教諭時代の日記 (1878~85年) や Education Welfare Officers' National Association (MSS. 71) (前身は1884年創立の School Attendance Officers' National Association) の資料も欠かせない。

3) National Amalgamated Union of Life Assurance Workers (MSS. 158)

当組合の前身は1884年創立の National Union of Life Assurance Agents であるが, 1919年に NAULAW と名称を変更した。同年の Pearl Assurance Co. Ltd. の労働者側の勝利となったストライキにみられるように, 急速に戦闘的になり, 以後その政治的姿勢を堅持してきた。A. A. Best, Frank Crump, Albert Vandome, S. P. Long の4名の当組合の指導者たちの Janet Druker による聞きとりテープも取められている。1919~61年の NAULAW の書簡ファイルや London and Manchester Assurance Co. Ltd. の書簡の報告書 (1920~76年) も所蔵されているが, NAULAW の議事録は未だ個人の所蔵となっている。

4) National and Local Government Officers Ass-

注(23) F. Ashton, *A History of the Guild of Insurance Officials*, 1969.

(24) Harold Perkin, *Key Profession*, 1969.

(25) B. Morton (ed.), *Action 1914-1969: a record of the growth of the National Association of Schoolmasters*, 1969.

(26) W. W. Craik, *The Central Labour College, 1909-29*, 1964.

(27) A. Spoor, *White-collar Union: sixty years of N. A. L. G. O.*, 1967.

ociation (MSS. 20)<sup>(27)</sup>

前身は1894年創立の Municipal Officers' Association であり、NALGO は 1905 年に創立された。NALGO および NALGO Insurance Association Ltd. より寄託された MRC の当資料はかなり揃っている。NALGO の様々な議事録 (たとえば、National Executive Council のは 1905~57年, General Purposes Committeeのは 1911~57年, Finance Committee のは 1947~59年, Service Conditions Committee のは 1918~65年 等々) は、長期間にわたって保存されているし、また、NALGO Provident Society (1914年創立) や British Gas Staff Association (1946年創立) や NALGO Insurance Association Ltd. (1890年) の議事録も入っているが、特異な存在は National Poor Law Officers' Association であろう。この組合は 1885 年に創立され、NALGO に吸収されるのは救貧法が廃止されたのちの 1930年であるが、10種類の議事録が残されており、そのひとつである Council and General Meeting の議事録は 1888年からはじまっている。

5) National Union of Bank Employee (MSS. 56)

Bank Officers' Guild (1918年創立) がイングランドとウェールズの銀行の事務職員を対象とした組合として組織され、また翌年、Scotland Bankers Association がスコットランドの銀行の事務職員を対象にして結成された。両者は 1946年に合同して上記の名称となったが、1919年以後の連続する議事録を所蔵し、また、Barclays, Lloyds, Martins の諸銀行の組合記録も保持している。

6) National Union of Journalists (MSS. 86)<sup>(28)</sup>

1907年の創立以来 1955年までの National Executive Committee の議事録が殆んど連続して保存されており、年次代表者大会 (1909, 1912~16, 17~18, 26~32, 33~37年) の議事録 5 巻等豊富な資料が残されている。さらに、Cambridge, Central London, Hastings, Star Editorial の 4 支部の議事録も残されているが、とくに Central London のそれは、1910~35年の 6 巻分と書簡等 2 束とよく資料が保存されている。

さらに、7) Transport Salaried Staffs Association (1897年創立) (MSS. 55), 8) Society of Post Office Executive (前身は 1910年創立) (MSS. 124, 116) の資料があるが、ここでは詳細なリストは省略する。

## V

最後に、MRC のユニークな 2 種類のコレクションを紹介しよう。

1) Federation of Sailmakers of Great Britain & Ireland (MSS. 87)<sup>(29)</sup> は、MRC のなかでもとくに興味あるものである。創立は 1889年であり、多くの港にそれ以前から存在していた Sailmaker の地方組合の連合として活動を開始した。だが、蒸気船の進出に伴い第一次大戦後次第に停滞していき、1926/27年に解体してしまふ。MRC が所蔵する資料は、Hull のある古書店に 1975年のある日突然 100 ポンドという驚くべき安さで売りだされたものであり、即座に MRC が購入したものである。当 Federation の本部は解体するまで Hull に置かれていたので、何らかの事情で地元古書店の手に入ったものと思われる。「当文書類は Federation が活動を中止して約 50年経って光が当てられるようになったのであり、当文書は驚くべきほど豊富である」(Storey & Druker)。即ち、

4 minute books, 1889-99 (2 gaps in series)

Printed minutes of annual and biennial conferences, 1892, 94, 97, 1902, 08, 10, 12, 14, 18.

Some balance sheets, or parts thereof, between 1890 & 1923.

Approx. 660 items of correspondence, between 1892 & 1923.

Some copies of monthly reports and wage rate data, mainly 1916-18.

Belfast, Hull, Liverpool and Federation rule books.

である。

約 660 点の書簡は、帆布製造業の地方状況、賃金、労働時間にかんする団体交渉、婦人の雇用、機械の導

注(28) C. J. Bundock, *The National Union of Journalists: A Jubilee history*, 1957. および F. J. Mansfield, "Gentlemen, the Press!".....*Official history of the National Union of Journalists*, 1943.

(29) M. G. Hirsh, *The Federation of Sailmakers of Great Britain and Ireland, 1889-1922: a craft union in crisis*, M. A. thesis, Univ. of Warwick, 1975-76.

入、戦時下の状況にかんする情報を提供する貴重な資料である。

2) 他の一つの特異な資料は、National Minority MovementおよびLondon Busmen's Rank and File Movement 関係の資料である。National Minority Movement<sup>(30)</sup>は、1924~33年にかけての Communist Party 指導による左翼労働組合運動であり、MRCにはその運動の Coventry Branch & Midland Bureau (MSS. 81)の資料(主として議事録)があり、この運動にかんする研究には、Tanner Papers in Nuffield College, Oxford や Marx Memorial Library のパンフレットや報告書とともに重要である。また、London Busmen's Rank and File Movement<sup>(31)</sup>は1930年代のラディカルな運動で、1933年の'speed up' strike や37年の Coronation Strike 等の多数の重要なストライキが生じるが、MRC 所蔵の資料(MSS. 62)には、その運動の指導者の一人 J. W. Jones から借用した回状や出版物の復写がある。また、ロンドンの争議や組織にかんする回状(1932~46年)や *Busman's Punch*, no. 2-58, 1932~37 (不完全)が含まれている。

## VI

以上がウォーリック大学 MRC の所蔵資料の概略である。(個人文書は、既述したもの以外は省略されている。)

「この国の労働史の活力のひとつの徴候は、新しい資料保存所の形成である」とは、R. サミュエル<sup>(32)</sup>が *Guide to the Modern Records Centre* の書評の冒頭で述べていることだが、この MRC の他にも、かれはつぎのような資料保存所を紹介している。1) Calder Valley records<sup>(33)</sup>, 2) South Wales Miners' Library in Swansea<sup>(34)</sup>, 3) Brighton Reference Library,

4) Manchester Polytechnic によるコレクション (Manchester Central Reference Library), 5) National Museum of Labour History at Limehouse, 6) Tom Mann centre (Coventry Reference Library), 7) Samuel Holborrow Society によるコレクション (Sheffield Central Library), 8) Eddie and Ruth Frow による "Working Class Movement Library" (Manchester)。このなかで、1) Calder Valley records に注目しよう。これは1975年にある個人がヨークシャーの Calder Valley における1926年ゼネストの50周年記念の会合を組織するために当時の記録を探すうちに、大量の労働組合資料を発見し、ウォーリック大学 MRC や Halifax Central Library との協力のもとに進行中の記録蒐集である。その発見者 Julian Harber は、つぎのようにのべている。

「かような計画が開始されたことの重要性は、強調されすぎることではない。何故なら、かような記録なしには、ブリテンの労働運動の発展を地方レベルで理解することは不可能となるからである。労働階級史に示された近年の広範な関心にもかかわらず、多くの記録保存所は哀れむべきほどの小さなコレクションしか所蔵していない。様々な組合の最近の合併や近い将来に計画されている合併は、多数の組合支部が閉鎖されることを意味している。地方で率先してやらなければ、それらの記録は破壊されるか失われるであろう。」<sup>(35)</sup>

この指摘は、イギリスだけでなく、わが国のばあいにも、きわめて重要な示唆を与えるものである。資料保存の充実と拡大なしには、社会史・労働史研究は、たんなる「流行」に終わってしまうからである。

(本稿作成のきっかけを与えて下さったのは、法政大学大原社会問題研究所の二村一夫氏である。記して謝意を表したい。)  
(経済学部助教授)

注(30) R. Martin, *Communism and the British Trade Unions*, 1969. および R. Hyman & J. Hinton, *Trade Unions and Revolution: the industrial politics of the early British Communist Party*, 1975.

(31) H. A. Clegg, *Labour Relations in London Transport*, 1950. および J. Barrett, *Rank & File Militancy among London busmen in the 1930's*, M. A. thesis, Univ. of Warwick, 1974.

(32) *Bulletin of the Society for the Study of Labour History*, no. 37, Autumn 1978, pp. 97-100.

(33) Calder Valley のコレクションについては、前掲 Julian Harber, *Labour Archives in the Calder Valley, History Workshop*, 5, Spring 1978, pp. 147~154. を参照されたい。

(34) この図書館は、SSRC の財政援助のもとに、南ウェールズの労働運動の資料蒐集のために、University College Swansea の歴史及び経済史学部の本拠地をおくもので、TUC, South Wales Area of NUM, および Welsh Council of Labour も強い支持を与えている。

(35) Julian Harber, *op. cit.*, p. 148.